

タイトル：歴史を色濃く感じるまち姫路

本文；

私は姫路市の最大のウリである、姫路城をもっと引き立たせるために「歴史を色濃く感じるまち、姫路」を30年後の姫路市として打ち出したい。もっと姫路市に観光客を、もっと姫路市を全国でも有名な自治体に、もっと姫路市にいたいとおもえるまちにしたい。

そう思った理由が2つある。1つ目が日本初の世界遺産、姫路城があることだ。天守閣だけでなく、天守閣周辺の様子がそのまま残っている。とても大きな武器がある。2つ目は広大な土地だ。534.4 km²の大きさがあり、この広さを何かに活かせる可能性がある、これらのことから私はまだまだ姫路市にポテンシャルを感じている。しかし、物事を進めていくうえで心配な点も存在する。現状の姫路市の課題として3つある。

1つは姫路城が姫路駅からすぐそこにあるために、観光客が姫路駅周辺から動かないことだ。姫路城から姫路駅までのアクセスの良さは利点でもあるが、目玉を見たつもりになってすぐに姫路駅に戻ってしまう。そして宿泊せずに神戸や京都に行ってしまう。もっと姫路市の色んな所を回ってほしい。

2つ目は姫路城以外に大きく認知されている観光地が少ないことだ。

姫路城以外に観光客が立ち寄る場所として挙げられるのは、書写山圓教寺、好古園くらいかもしれない。姫路市民でもこの2つ程度しか挙げられないのではないかな。

そうである、姫路市には武器が少ないのだ。武器を増やしたい。

3つ目は姫路市のこれからの人口減が地域によって差はあれども進んでいくことだ。2017年度の姫路市校區別人口調査によると、69校区中66の校区にて人口減となっている。令和元年の姫路市人口調査にて7年連続人口減となっている。今後姫路市が人口を増やすことは難しいのではないかと感じている。このままでは税収が下がり、姫路市の中でもインフラやサービスなどに差がでかかねない。

上記3点から姫路市の弱点を挙げた。もっと姫路市の色々なところに回ってほしい。隠れた魅力にまで観光客を惹きつけたい。税収が下がっていく分、観光産業での収入でカバーしたい。これらの弱点を姫路市の強みとしていくために「歴史を色濃く感じるまち姫路」を実現させたい。

「歴史を色濃く感じるまち姫路」の概要として、姫路市の中で過去にお城があった人口減が激しい地域の空き家を利用し、城下町のような街並みに改装する。過去にあったお城も簡単に再建築する。住宅街だけでなく、空いている土地なども活用し、いっそのこと姫路市をまるごと観光地にしてしまえばよいと思っている。各地域で推している特産物にも違いがあるので、その違いを商品化し、観光客が一日で回り切れない巨大観光市とする。

街並みの改装の難点として、莫大な費用がかかることがあげられる。空き家の改装、お城の建築など、税収がこれから下がるであろう姫路市には厳しい案件だ。そこで、企業を誘致する。現在淡路島にてPASONAがニジゲンノモリなどを建設し、急激な観光客の増加が起こっている。淡路島にならば、何らかの企業を誘致する。姫路市では姫路城を使った時代劇の撮影が多いので、ハリウッドのように姫路を時代劇撮影専門のまちに仕立て上げるのも面白いのかもしれない。映画村では特撮ヒーローがピックアップされて根強いファンをもっているように、姫路市では全国に散らばる歴史ファンを一つにまとめてみる場となってもよいと思う。

これらのものを実現できれば姫路市は全国随一の歴史特化のまちになれる。観光客を呼び寄せ、財源を潤す。財源が潤えば行政のできることの幅が広まり、姫路で何か良い取り組みが増えるかもしれない。そんな期待をこめた「歴史を色濃く感じるまち姫路」だ。